

1 業務への理解 医療を核とした街づくりの拠点

松本市は、医療を核とした街づくりの拠点を構築することにより、持続可能な成熟型社会を推進して行くことが求められています。

私たちはその実現に向けて、新病院が下記の4点を担う極めて重要な事業であると認識しています。

- ① 西部地域の基幹病院として、市民の命を守り、安心・安全な暮らしを永続させる責務を担う
- ② 急性期医療を中心に、そして公立病院の使命である救急・感染医療や周産期医療、へき地医療支援等の政策医療を担う
- ③ 医療と介護の連携強化を図り、病院から在宅への切れ目ない医療提供を実現するための回復期医療を担う
- ④ ゼロカーボンの街づくりの中核施設としての機能を担う

基本計画を念頭に、関係者の皆様のご意見を真摯に受け止め、熱意と誠意をもって全力で業務に取り組みます。

2 業務への取組体制 「共想」「協創」で理想の病院を実現

■ 共につくるための「対話」と「相互理解」を重視

- 皆様との「対話」を重視し、綿密な打合せやヒアリングを実施。意見や要望を十分に理解し、皆様の「想い」を確実に設計に反映。
- 検討課題をリスト化し「いつ・誰が・何を」を皆様と共有。「共につくる」姿勢を重視し、確実な合意形成で理想の病院を実現。

1. 病院の特徴・課題の把握

基本計画の内容確認や既存病院調査、ヒアリングを通し、病院の特徴・課題を設計初期段階で把握



2. 提案型でプロジェクトを主導

メリット・デメリットを示した分かりやすい資料を提示、複数案の比較検討で最適解を導出

複数案の提示	
A案	B案
動線△	動線○
経済性△	経済性○
工期△	工期○

3. 具体的イメージの共有

類似事例紹介や視察同行を積極的に実施、具体的なイメージを共有しながら設計を推進



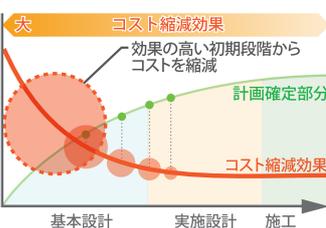
4. 機能・コストのベストバランス

費用対効果を常に意識して設計業務を進め、機能とコストのベストバランスを追求



■ 基本設計の初期段階を重視

- 建物の骨格やコスト・品質の大部分が決まる基本設計初期段階を重視する設計手法を採用。検討課題を早期に抽出・解決し、ローコストで高品質な施設を実現。



■ 建設市場の動向を常に把握したコスト管理

- 豊富な実績に基づくコスト情報と上昇傾向の建築市場動向をふまえた価格変動を分析・推測し、継続的なコスト管理を実施。

■ 分かりやすい資料による確実な合意形成

- ビジュアルで分かりやすく、検討しやすい打合せ資料を提示。皆様とイメージを共有し、円滑な合意形成を構築。



3 設計チームの特徴 経験豊富な「松本プロジェクトチーム」を結成

■ 医療施設設計と運用計画に精通したエキスパート

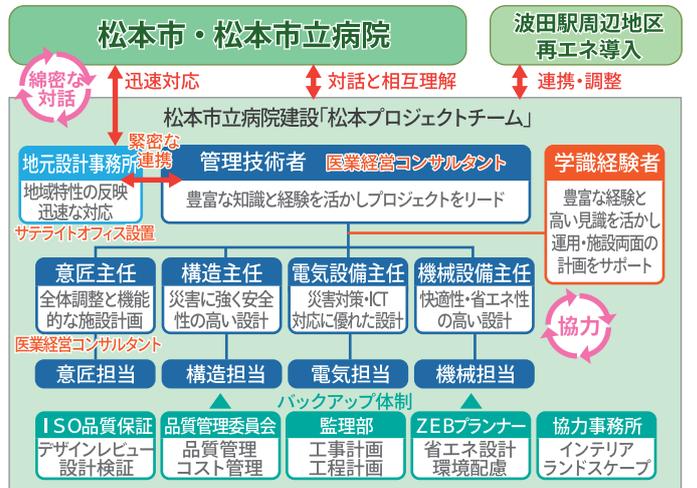
- 管理技術者と意匠主任に経験豊富な医療経営コンサルタントの有資格者を配置。医療サービスの質を高める運営計画に配慮し、ソフトとハードがベストマッチした施設を実現。

■ 学識経験者の参画と地元事務所との緊密な連携

- 運用を踏まえた医療施設の研究者である学識経験者(大学教授)をアドバイザーに迎え、蓄積された知見や様々なデータを基に貴病院に相応しい新病院のかたちを追求。
- 地域を熟知した地元事務所内にサテライトオフィスを設置。綿密な連携を図り、迅速対応と地域情報を集約化。

■ 豊富な実績を活かした全社的バックアップ体制を構築

- 累計56,300床を超える弊社医療施設設計実績に基づき、蓄積された知見とノウハウを活用し、全社的支援体制で本事業を遂行。
- ZEBプランナー登録の弊社が「ゼロカーボン」に向けた環境配慮と災害時も医療継続可能な「ノックダウン病院」を両立する省エネシステムを推進。



4 特に重視する設計上の配慮事項等 (提案テーマ内容を除く) 現在の社会的課題への取組み

■ 医療動向と地域包括ケアシステムの構築を見据えた施設づくり

- 今後の医療制度改革や医療の働き方改革、アフターコロナの社会環境の変化において、安定的かつ持続的に医療提供できる新病院を提案。
- DX推進のため、オンライン診療・情報の共有化、医療業務の効率化、臨床データベースの活用等を考慮したICT環境を充実整備。地域包括ケアシステムにおける医療施設の使命を果たし、地域社会に貢献する体制構築を支援。

社会的課題	対応策
1 激甚化する災害への対応	高い耐震性・ライフラインの多重化・他病院との連携強化
2 カーボンニュートラル	先進技術の導入・自然エネルギーの活用・ZEB化の推進
3 DXの推進	オンライン診療・情報の共有化、医療業務の効率化、臨床データベースの活用、福祉・介護の連携強化、地域包括ケアシステムにおける活用等、ICT環境の充実
4 働き方改革の推進	2024年に向けた働き方改革 (ICTの活用やタスク・シフティング)
5 アフターコロナの環境づくり	施設内の感染症対策の継続 「松本モデル」の検証と新病院における対応検討
6 将来を見据えた病院施設の柔軟性	改修・増築・用途変更に対応できるフレキシビリティの確保 (ロングスパン架構分散設備シャフト・スカルトンインフィル)

■ 松本市の脱炭素プロジェクト「4本柱」を考慮した設計取組み

- 「松本市ゼロカーボン実現条例」が6月に施行され、「松本平ゼロカーボン・コンソーシアム」を結成、「松本市地域エネルギー事業会社」や「松本市・脱炭素先行地域(波田駅周辺地区再エネ導入)」の4本柱が進む中、新病院が脱炭素社会の「街型拠点モデル」の一翼を担うための、環境配慮と先進的な技術を導入した設計を遂行。

04 部門配置と動線計画について 急性期から回復期、感染症対応までフレキシブルな運用が可能な多翼型病棟

「高い個室率」と「看護動線の短縮」を両立させた多翼型病棟

- SSから各病室が見通せ、病室への看護動線を最短化。
- ①看護のSSを直結する「スタップリンク」で病棟間連携を向上。
- メディカルサポートエリアの集約化とチーム医療を促進するスタッフベース
- ②薬剤・器材・廃棄等の「メディカルサポートエリア」を搬送・スタッフ用EVに直結。病棟SS間に隣接し、業務の効率化を実現。
- ③各病棟共通の5階「スタッフベース」は、スタッフの多職種交流を目的として整備。チーム医療促進に寄与。

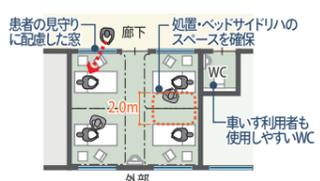
見守り重視の「急性期病棟」

- 病室は廊下側に窓を設け、SSや廊下から看護・観察がしやすい「見守り病棟」を提案。
- 病室内のベッドサイドスペースを十分に確保。早期のベッドサイドリハが行える環境を整備。
- ④第二種感染症病室を6室整備。感染拡大時は30床まで受入れ可能。



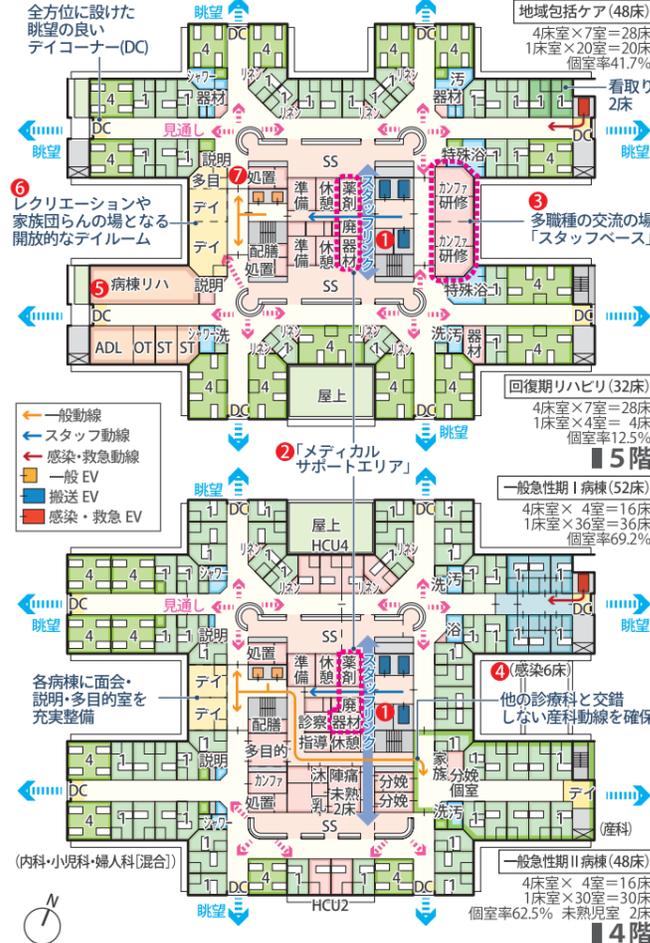
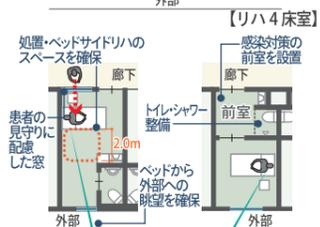
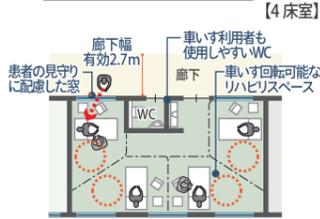
病棟全体でリハが可能な家庭環境を再現した「回復期リハ病棟」

- リハ4床室はベッドサイドで車いすが回転できるスペースを確保。トイレ・洗面所を近接させ、自力対応を促進。
- ⑤病棟リハやADL室を併設。身近に訓練ができるスペースを確保。



家庭的な暖かみのある「地域包括ケア病棟」

- ⑥病室やテイルームは家庭的な暖かみのあるインテリアを採用。
- 充実したチーム医療で早期の在宅復帰を支援。
- ⑦病棟出入口は電気錠の2重の自動ドアを設置。セキュリティを向上させ、安全性を確保。



05 部門配置と動線計画について 交流を促進する「松本ワークプレイス」/働きやすく安全で快適な医療環境

スタッフ間の交流と連携強化を促進する「松本ワークプレイス」を提案

- 管理部門を3階ワンフロアに集約し、「松本ワークプレイス」を整備。スタッフ間のコミュニケーション強化とチーム医療体制の構築に寄与。



- ①【当直室】搬送用EV・階段に隣接配置。緊急時の迅速な対応に配慮。
- ②【会議エリア】会議室を集約配置。会議のDX化に対応したLAN環境を整備。
- ③【研修医・学生室】医局・看護部エリアに近接配置。医師・看護師・スタッフとの日常的な交流と指導が身近にできる環境を整備。

臨床教育研修センターを充実整備し地域医療をサポート

- 実践的な実習が可能なシミュレーション室を整備。術中の院内映像配信やeラーニング等のIT環境を充実整備。

専用動線とスタッフ諸室隣接

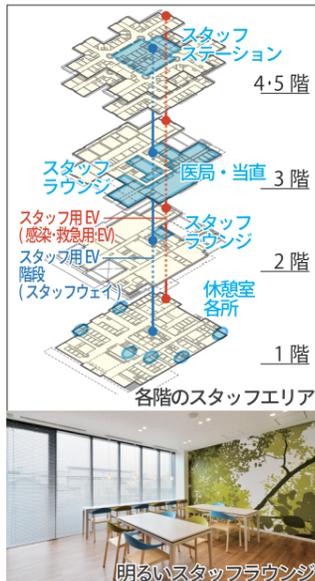
- 建物中央にスタッフ専用のエレベータ・階段(スタッフウェイ)を集約。感染・救急用EVも平時は利用でき、各所への動線短縮と業務効率の向上を実現。

安全で快適に働ける環境整備

- 明確な感染エリアの設定、PPE配置により、安全に働ける環境を提供。
- 2階・3階スタッフラウンジは食事・休憩・交流の場として整備。休憩室を各部門内に確保。
- パウダールーム、個人収納トイレ、シャワー室を整備し、アメニティを向上。

進化する情報技術の医療改革

- 遠隔診療、AI診断、WEBカンファ、ICT活用等の病院DXを想定したネットワーク環境を整備。



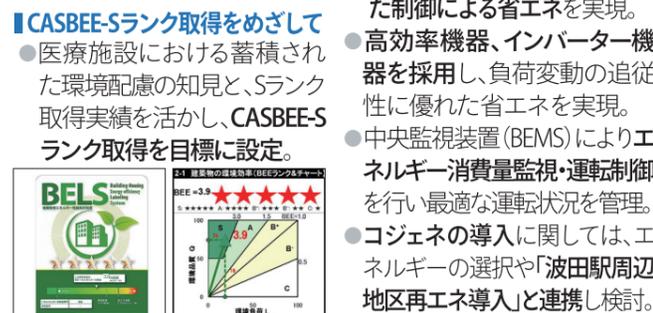
06 ゼロカーボンの街づくりの中核施設として高レベルのエコホスピタルを実現

2050ゼロカーボンに向けた低炭素・低環境負荷の新病院

- 松本市「脱炭素プロジェクト」の4本柱を考慮。特に「波田駅周辺地区再エネ導入」との連携を図り、ゼロカーボンシティに貢献。
- 省エネ技術を駆使しZEB Oriented取得をめざして
- 環境配慮や災害時の継続性向上を目的にZEB(ネット・ゼロ・エネルギー)を推進。
- 省エネ手法や高効率機器の採用により一次エネルギー削減率31.5%(創エネを除く)を達成し、ZEB Oriented(30%以上)取得を目標に設定。

CASBEE-Sランク取得をめざして

- 医療施設における蓄積された環境配慮の知見と、Sランク取得実績を活かし、CASBEE-Sランク取得を目標に設定。
- CASBEE-Sランク取得をめざして
- 医療施設における蓄積された環境配慮の知見と、Sランク取得実績を活かし、CASBEE-Sランク取得を目標に設定。



07 人口減少に伴う柔軟な施設の可変性等の考え方 将来変化に柔軟に対応できる「サステナブルホスピタル」

将来変化を見据えた可変性

- 将来の人口減少や医療ニーズの変化、或いは他用途(福祉・保健施設等)への転換に対応できる「サステナブルホスピタル」を実現。

高い可変性を確保した4つの「フレキシブル・ブロック」

- 低層階・病棟階の平面を4つのブロックで構成し、各ブロックに設備シャフトを配置。ブロック毎の改修や用途変更が可能。

自由度を高める「フリープラン架構」

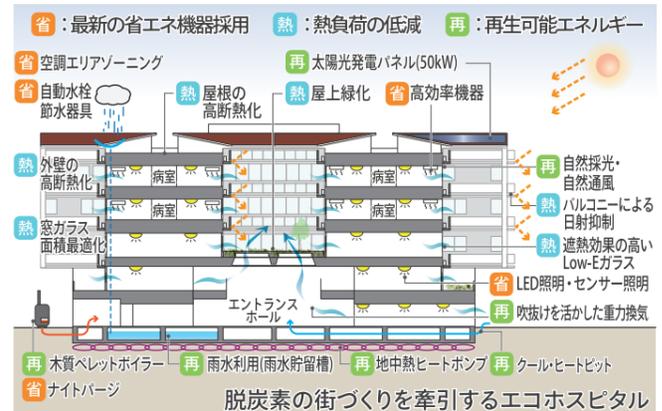
- 整形でシンプルな平面形状、柱が少ないロングスパン構造とし、改修が容易な架構を採用。

改修容易な「中央コア・分散シャフト」

- 中央に機能別エレベータ・階段等を集約。建物端部及び中央に設備シャフトを分散配置。日々のメンテナンスや機能拡張、改修、用途変更に対応。

多床室の個室化と病棟転用

- 病室は4床室から1床室へ転換、重症患者増加によるHCU化、終末期に備えた緩和ケアユニット化にも対応可能。



CO2排出量38%、一次エネ32%削減

CO2排出量の削減	電気	ガス	重油
標準施設	約3,119t-CO2/年		
計画施設	約1,916t-CO2/年		
削減率	約38.6%		
削減額	約1,200t-CO2/年の削減		

一次エネルギーの削減	空調	照明	給湯	他
標準施設	約3,681MJ/m ² ・年			
計画施設	約2,488MJ/m ² ・年			
削減率	約32.4%			
削減額	約1,193MJ/m ² ・年			

光熱水費の削減	水道	電気	ガス	重油
標準施設	約8,382円/m ² ・年			
計画施設	約5,767円/m ² ・年			
削減率	約31.2%			
削減額	年間約3,900万円の削減			

内部拡張とフレーム内増築を確保

- 将来拡張や改修が見込まれる諸室に隣接して改修が容易な倉庫・休憩室等を配置。
- 予め東側2階屋上を利用した増築フレーム(柱・梁を構築)を計画。手術部門や診療機能拡張に柔軟に対応。

増築棟による機能拡張

- 医療の高度化に備え、敷地東、北側に増築余地を確保。増築棟に面する廊下端部をオープンエンドとし、構造・設備の接続が容易な計画。

ICT・ロボット等の先進技術活用

- 院内のICT化によるオンライン診療や遠隔画像診断に対応できる設備環境を整備。
- 案内・警備・搬送・清掃等のロボットシステム採用を想定し、人とロボットが円滑に稼働できる施設づくりを実現。



08 感染症対策への配慮

「松本モデル」を継承し、平常時の感染症対応から感染拡大時の対応に円滑に移行

迅速な感染対応と安全対策

- 感染・救急用エレベータを整備し、1階救急に併設した発熱外来(感染)と3階手術エリア、4階感染症病床と直結。
●独立した感染ルートを確認し、安全で迅速な搬送を実現。
●各感染対応室にはスタッフの着脱のための前室を配置。

感染拡大時の発熱・救急対応

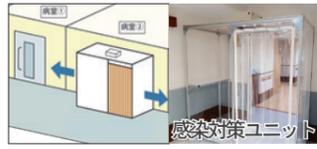
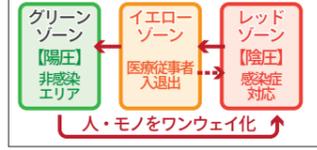
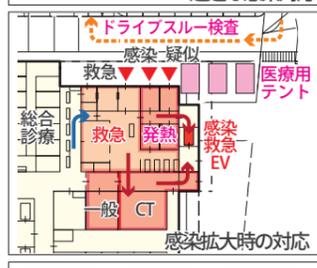
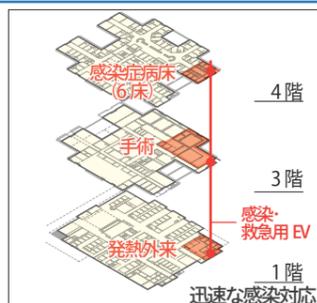
- 感染拡大時は初療室を含む救急エリアを陰圧に切り替え、発熱患者の受入れに対応。
●発熱外来出入口の大庇下にはパンテミック対応エリアを確保し、医療用テントやドライブスルー検査場が設置可能な電源・給排水を用意。

スタッフの感染を防ぐ3つのゾーン

- 感染エリアを3つのゾーンに明確化し、患者やスタッフ、物品資材等をワンウェイ化。スタッフの感染リスクを低減。

一般個室1室から感染対応へ

- 陰圧でHEPAフィルター付の移動式「感染対策ユニット」を病室前に設置することで、感染区画を容易に形成。感染患者数に合わせた病室確保が可能。



感染症病棟の段階的な転換

- 感染症病棟は区画扉や可動間仕切りを予め設置し、6床⇒18床⇒30床へと段階的に病床数を転換できる計画。「感染対策ユニット」を活用し、増床1室からの柔軟な運用も可能。

安全な空気の流れを構築

- 廊下等の共用部を陽圧、病室・トイレを陰圧とし、ワンウェイの空気の流れをつくり、患者・スタッフの感染リスクを低減。

感染リスクを減らす安全な施設

- 自動水栓等、非接触化の促進や水跳ねの少ない手洗い器、壁掛け便器等、感染を防止。

Table with 2 columns: Infection control support examples (e.g., AI body temperature check, elevator non-contact buttons, etc.) and their descriptions.

09 防災(災害時のBCP対応やライフラインへの配慮事項)への配慮事項

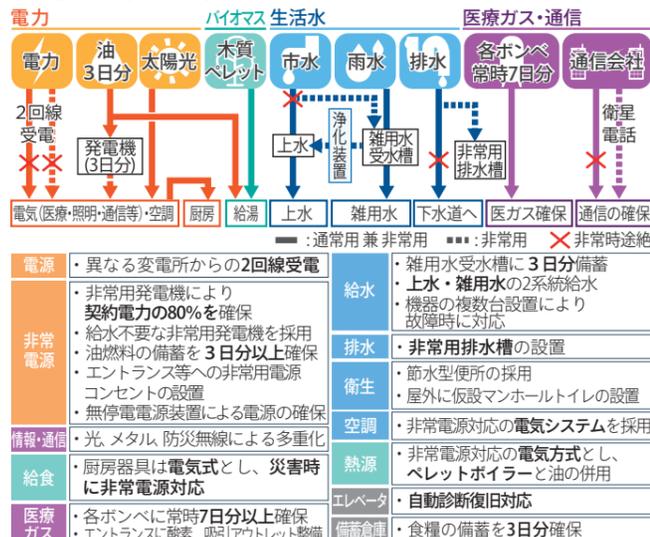
災害時にも医療活動の継続が可能な「ノンダウン病院」を実現

大地震時に新病院を守る強固な構造体

- 大規模地震の被災後も医療を継続できる耐震性(分類I)を確保。
●耐震天井の採用やパネル壁・設備機器の転倒防止策を徹底。

3日間自立可能な設備システム「ノンダウン病院」

- 災害時においても医療を継続するため、ライフラインの多重化と備蓄により、電気・水・医療ガス・通信が3日間途絶えることのないバックアップシステムを構築。
●非常事態に迅速に対応するため、継続・復旧させる事業・部署の優先順位を明確化。



災害モードへの機能転換

- 災害時の敷地・建物の活用方法を想定し、迅速に災害モードに転換可能な計画。
●健康管理センターを軽症、外来を中等症、救急を重症へと段階的な患者受入が可能な計画。
●要所に医療ガス・非常用コンセントを整備し、軽症治療に対応。
●3階会議室は災害対策本部、医局は対策分科スペースに転用。

Table showing functional conversion of various areas during disaster: 3F (Meeting room to Disaster Response Dept, Clinic to Response Branch), 2F (Rehab to Observation Area, etc.), 1F (Reception to Patient Reception, etc.), and Outside (Existing parking lot to Material Storage).

火災時の安全性の確保

- 自力避難が困難な患者が多い病棟は3つの防火区画を設け、火災時避難の安全性を確保。

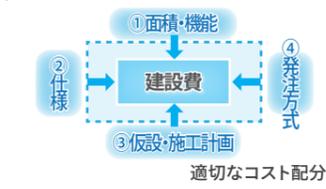


10 イニシャルコストの考え方

計画的なコストマネジメントでローコスト・高品質の新病院を実現

施設のライフサイクルを見据えたコストマネジメント

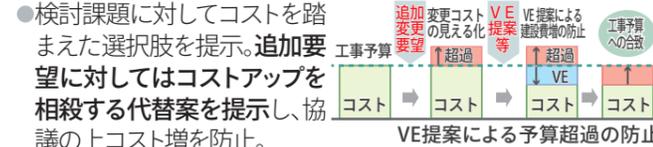
- 病院の役割やライフサイクルコスト等、プロジェクト全体を俯瞰し、①面積・機能②仕様③仮設・施工計画④発注方法の各分野において最適なコスト配分を提案。



コスト検証と第三者的視点によるコスト管理

- 各フェーズでコスト検証を実施。社内の品質管理委員会が第三者的視点で、豊富な実績で培ったノウハウを活かし、VE提案内容も含めコスト・品質を総合的にチェック。

常にコストを踏まえた提案により予算超過を防止



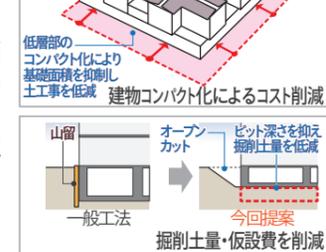
コンパクト化によるコスト削減

- 低層階をシンプルな矩形の平面形状とし、外表面積を縮減。



土工事の工夫によるコスト削減

- 建物をコンパクトにし基礎面積を抑えることで、工事費の大きい土工事を低減。
●基礎ピット深さや形状・配置の工夫で掘削土量を削減。
●地質特性をふまえオープンカットを採用し、山留の仮設費を削減。

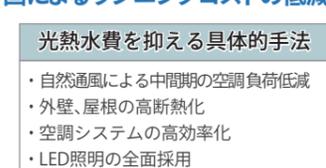


11 ランニングコストの考え方

維持管理・更新コストを抑え、長く使い続けられる施設づくり

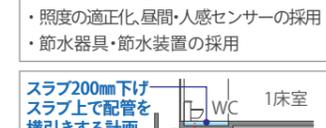
機能に合わせた最適な設備計画によるランニングコストの低減

- 比較的安価な電気を主体とした熱源を用いた効率的な空調計画を実現。
●高効率空調機器や変圧器を採用しランニングコストを低減。



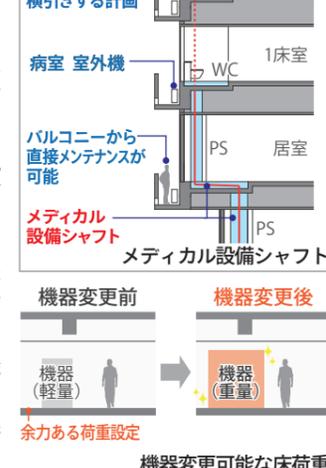
機器更新が容易な病室個別空調

- 病室を個別空調とし、室外機を各室バルコニー部に設置。日々のメンテナンスを簡易化。



成長と変化に追従する構造・設備

- 低層階に分散配置した「メディカル設備シャフト」を計画。病棟階からの横引き配管を最短化。
●外周部にバルコニーやメディカル設備シャフトを配置し、改修や設備メンテ時にも患者エリアを経由せずに対応可能。
●設備・電気シャフト等は将来の機器増設や荷重変化に対応できるスペースを確保。
●手術・放射線等、重量医療機器を設置する部門は余力のある床荷重設定とし、医療機器更新の際の機種変更に対応。



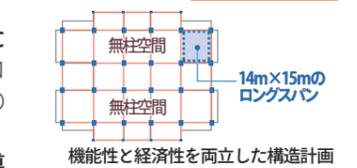
鉄骨造によるコスト削減

- 鉄骨造を採用し、現場作業効率を高め、工期短縮を図り、建設コストを抑制。

Comparison table between Reinforced Concrete and Steel Frame construction methods, highlighting cost and construction advantages of steel frame.

ロングスパン架構の採用

- 最大14m×15mのロングスパン架構を採用。柱本数の削減により躯体費用を圧縮。



コストを意識した設備計画

- 個別空調システムを主体とした設備計画を採用。病室はバルコニーに機器を設置し、冷媒管の最短化により配管工事費を削減。
●大温度差送水システムを導入。配管のサイズダウンにより工事費を削減。
●設備シャフトを各階同位置とし、適正な位置に分散配置することで、配管ルートを短縮化。

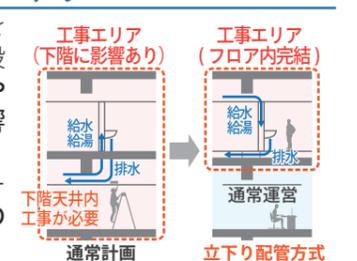
汎用品・規格品によるコスト削減

- 外装は規定サイズの成型板や規格品のサッシを採用。コスト削減や現場作業縮減による工期圧縮を実現。
●部屋の用途に応じたメリハリあるインテリアを計画。色・柄は共通化を図り、汎用品や規格品を積極的に採用。

Table listing various cost-saving measures for building equipment and materials, such as standardized equipment and generic materials.

立下り配管方式や二重床を採用したフロア内完結の設備計画を徹底

- 隣接部門や上下階の診療機能への影響なく設備更新が可能。
●配管・配線はエリアごとのゾーニングを徹底。点検・修繕時の部分停電・断水の影響を抑制。



大規模修繕工事の費用負担を軽減

- 耐久性の高い防水・外装材の採用や、将来の修繕がしやすい工法の採用により大規模修繕工事の費用を削減。
●国交省監修の算定プログラムに基づき、竣工後65年間のライフサイクルコストを算出。大規模修繕工事を含めた施設維持・管理費用のロードマップづくりをサポート。

日々のメンテナンス性の向上

- 外周部にバルコニーを設置。窓清掃や外壁補修が容易な計画。
●清掃性に配慮した材料の選択と建築ディテールにより清掃を効率化。
●保守や更新の際の同一部材の入手が容易な汎用品を採用。
●資格者不要又は定期点検の簡易な機器を採用し、施設管理の負担を軽減。

Table detailing maintenance and repair strategies, including the use of durable materials and easy-to-maintain equipment.

12 地域資源を活用した提案 松本市の歴史・文化・自然を取り入れた地域に寄り添う病院

波田地区は、北アルプスの上高地や乗鞍高原の玄関口であり、北アルプスの雪解け水が流れる梓川によってつくられた段丘のあるまちです。

四季折々の美しく色鮮やかな自然と長い歴史の遺産が残るまちに寄り添い、地域と共に歩む病院づくりを心がけます。

■地域に寄り添う新たな病院

- 松本城や城下町の街並み等、歴史と文化を感じさせる外観をまとった新病院を提案。
- 白いバルコニーのシャープな水平ラインとモノトーンの落ち着いた外壁の組み合わせにより、先進性と地域性を融合させた外観デザインを提案。



■松本市の伝統工芸や県産材を取り入れた親しまれる病院

- 1 HATAガーデンは「松本てまり」の柄をモチーフに、市民に親しまれる癒しの場を創出。
- 2 ヒノキ・カラマツ等の地場産材をカウンターの一部に採用し、地産地消を実現。「松本民芸家具」の設置も検討。
- 3 案内サインは落ち着いた色合いの「松本軸」をモチーフとしたアクセントカラーを提案。

■地域企業との協働を検討

- 松本市や長野県内の優れた多くの企業特性を把握。地元発注率の向上等、地域と共につくる病院を推進。
- 長野県産木材を内装材等に活用する等、松本広域森林組合との協働も検討。



13 現病院跡地利用について/地域活性化を促進する提案 多世代の人々が集い、交流できる新たな賑わいの拠点づくり～「健康・福祉」と「3ガク」がつながる「メディカル・パークHATA」

5つのケーススタディを踏まえ、新耐震構造である既存建物を有効活用し、「健康・福祉」と「3ガク」がつながり地域活性化を担う賑わいの拠点「メディカル・パークHATA」を提案します。

用途	既存建物を解体する場合		既存建物を利用する場合		E案(本提案)
	A案	B案	C案	D案	
利用対象者	地域内外	病院職員	地域内	地域外	地域内外
地域活性化	○	—	○	○	◎
多世代交流	△	—	○	○	◎
病院との連携	△	◎	○	○	◎
3ガク体験	△	—	○	○	◎
コスト	◎	◎	○	○	◎

■基本方針

既存建物を活用し再整備

計画の具体化に向けて重視したポイント

- 社会背景
- 周辺施設との連携
- リノベーション
- 松本市の政策

■整備方針

医療・福祉・3ガクを核とした多様な世代が交流できるまちづくり

■導入する機能

- ・高齢者福祉・宿泊施設
- ・子育て支援・研修施設
- ・健康増進・防災安全
- ・交流促進(まちの機能)

「健康・福祉」を核とした拠点
「健康寿命延伸都市・松本」をサポート

「3ガク」の体験・学びの場
松本市の豊かな自然と歴史・文化・芸術が織りなす魅力の発信拠点

「メディカル・パークHATA」
市内外の多世代の人々の交流が生まれ、賑わいあふれた、次世代につながる魅力ある街づくりをサポート

■周辺施設と連携した新たな街づくり

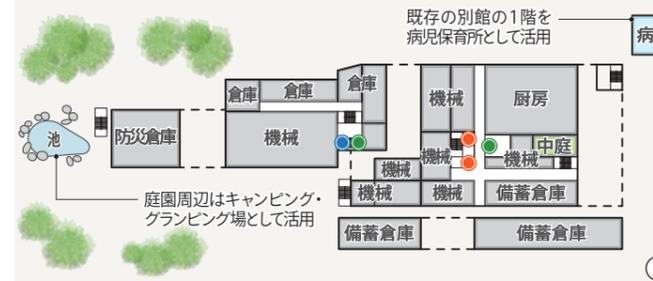
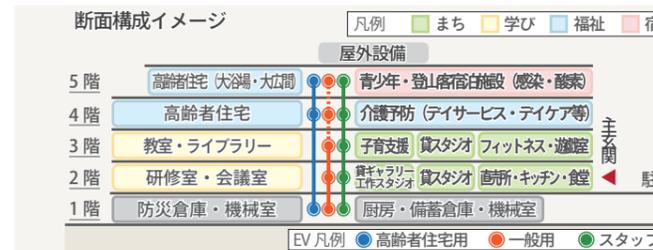
- 波田駅周辺に点在する介護福祉、子育て支援、学童、公民館、学校等の公共施設との連携を取りながら、新たな健康と福祉のネットワークを構築。



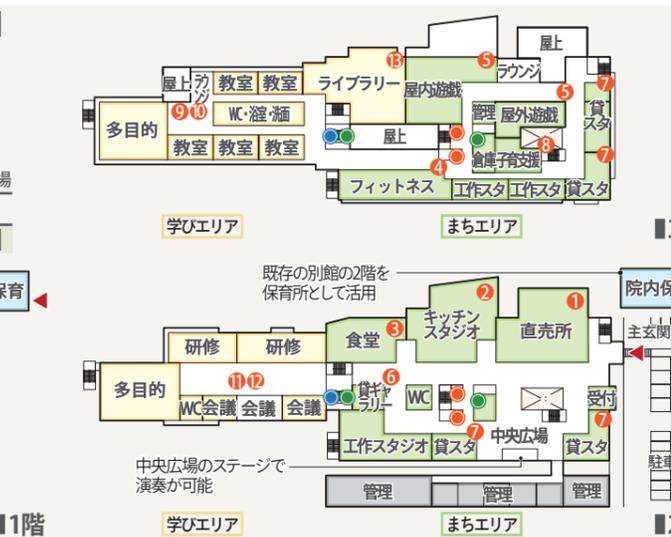
■地域活性化を促進する「まち」「学び」「福祉」「宿泊」の4機能

●メディカル・パークHATAは「まち」「学び」「福祉」「宿泊」の4つの機能で構成。人々が集い、賑わいあふれた交流の場を創出。

機能	内容
まちの機能	エントランス付近に「まち」をイメージした「たべる」、「つくる」、「かなでる」、「あそぶ」の4つのアクティビティを整備。市内の人々が気軽に立ち寄り、多世代間の交流の場を創出
学びの機能	研修室、会議室、教室を整備。新病院の研修にも利用可能であり、3ガクを学び、脱炭素社会への取組みや健康・福祉の学びの場を創出
福祉の機能	緑豊かな環境のもと、高齢者住宅を整備。病院と連携が容易なデイケアやサービスを整備。「まち」「学び」を訪れた子供たちとのふれあいを誘発
宿泊の機能	宿泊施設は公共施設として青少年の家や登山客宿泊を想定。近隣の小中学校や市内外の利用を想定。公共化することで、感染拡大時の緊急利用が可能
地域防災機能	研修室、会議室、教室は、災害時の避難場所として機能。1階には地域の防災倉庫や備蓄倉庫、非常用発電機を整備し、厨房を利用した被災者支援を検討



用途	役割
1 直売所	サラタ街道近辺で採れたての野菜を売り、地域活性化に貢献。身体に良い産地の野菜や果物を用いた食育の推進。
2 キッチンスタジオ	産地の食材を用いて健康食を提供。
3 食堂	気軽に運動できる環境を整備。健康増進をサポート。
4 フィットネス	児童が集いコミュニティの促進。
5 遊戯場(屋根のある公園)	伝統工芸品を気軽にふれられる場。
6 貸しギャラリー(ワークスタジオの作品展示・販売)	演奏を行うスタジオ(1階中央広場で演奏会可能)、工房のようなアトリエを整備。
7 貸しスタジオ	地域の子育て支援センターや学童などの拠点とし、子育てしやすいまちを促進。
8 子育て支援センター	松本市の文化を継承し、山岳への興味を促進。
9 山岳ガイド育成学校	松本市の文化に継承し、山岳への興味を促進。
10 自然学校・田園体験施設(小・中学校との連携)	子供が松本市の自然に興味を深めるための教育システム。
11 再生エネルギー教育研修期間	脱炭素のモデル地区を目指すための教育プログラム。
12 キャンピング・グランピング施設(西側庭園・池周囲)	市内の人々との交流を促進。
13 ライブラリー	主に松本市に関する図書を蔵書し、土地の文化を学ぶことで地域への意識を促進。
14 高齢者住宅	介護サービス付き有料老人ホーム、サ高住等を設置。
15 デイサービス/テイクア	介護サービスや治療を行い、病院と連携。
16 地域外の登山客・青少年宿泊施設(感染患者用ホテル/病室)	感染拡大時には療養室となり、酸素ステーションとしても利用可能。無症状患者や拡大時感染患者に対応。



■跡地利用に関する+αの提案

- 波田地区では「松本市波田駅周辺地区再生可能エネルギー等導入検討」に向けての事業が推進されています。
- 検討案として、現病院を地域における「環境配慮型エネルギーセンター」として再整備し、地域活性化の一翼を担う施設とすることを提案します。太陽光、バイオマス、CGS、蓄電設備等のハード面を提供し、脱炭素社会に向けた新たな取り組みを提案します。

